

## 2008年 子年 元旦



鹿ヶ谷、哲学の路、大豊神社

こま鼠、高麗鼠か独楽鼠か知らないが、ちょこまか、ちょこまか、まめに動いて、よく働く事が、豊になり、幸福に結びつくと思われていた時代の吉祥シンボル。

人をだまらかしても金儲けをするのが偉い、と言う時代では受け入れられないかも知れませんが、人間、謙虚になり、自然と調和して生きて行きながら幸せになるには、金儲けの効率のみの追求をもう止めて、こま鼠のように生きる事に再び価値を見いださなければならぬのかも知れません。 子年元旦 沈考

# 新投稿欄 「近頃、記憶に残った一文」 募集

最近読まれた文章で、その内容に関し思いをめぐらせるようなものがあれば、是非ともご紹介下さい。その文章を引用し、継ぎ合わせ、自分の意見を付け加え、自分の致した思いを間接的にでも読者に主張願えればと思っています。投稿文には投稿者が題を付け、最後に引用文の出典をおつけ下さい。

## 【例】 もったいない

昭和41年卒 久保愛三

子供のころ、ものを雑に扱うと、いつも母に「もったいない。もっと大切に使いなさい。」と言われた。下に紹介する文を読んで、その昔を思い出しました。

\*\*\*\*\*

毎朝、ご飯を食べたら使用済みのお茶碗を割ってリサイクルに出し、昼もご飯を食べたらお茶碗を割ってリサイクルに出す。そんな人は日本中、どこを探してもいないだろう。

お茶碗は昔からあり、「ものを大切に使う」事が当たり前のように実践されてきた。お茶碗を作る陶磁器の職人は小さな作業場で働き、特別、お金持ちでもなかったが、それでもお茶碗を買いにきたお客さんには丁寧に新聞紙でくるんで「大切に使って下さい」と言って手渡したものである。もの作りの誠がここにあった。

お茶碗作りの職人にとっては、新しいお茶碗に定期的買い換えてもらえば売り上げは増えるし、お金も儲けられる。しかし、職人には「職人としての魂やプライド」があったから、「大切に使って下さい」と自然にすつと言えた。すぐに割れたり欠けたりして、また買ってくればもっと儲けられるわけだが、そんなことは言わなかった。

現代の工業製品であるペットボトルは違う。ペットボトルを作る会社は、現在の経済体制下で、その製品であるペットボトルを「開栓後は冷蔵庫に入れ、お早めにお飲み下さい。そして飲み終えたら（すぐに捨てて）リサイクルして下さい。」というメッセージをたくして売る。自分が作った物、自分の会社が作った製品だ





が、もうそこには職人が込めたようなもの作りの魂は無いのだ。 ペットボトルは「大切に繰り返し使って下さい」と言って売ることのできない愚劣な工業製品に成り下がっている。

ペットボトルはポリエチレンテレフタレートという、リサイクルに非常な手間とエネルギーがかかる樹脂で出来ているため、むしろお茶碗の方がリサイクルしやすいくらいなのに、お茶碗をリサイクルするとは誰も言わずペットボトルはリサイクルしなければ罪のように言われる。

ペットボトルを1回使って焼却する場合の全換算石油量は96.0グラム、1回使ってそれをリサイクルする場合には238.0グラム、5回使ってから焼却した場合には、そのペットボトル1回使用についての全換算石油量は19.2グラムという試算もあるのにである。 -- (出典 「環境問題はなぜウソがまかり通るのか 2」、武田邦彦、洋泉社) に若干の補足・加筆 --

\*\*\*\*\*

## —— 京機短信への寄稿、 宜しくお願ひ申し上げます ——

### 【要領】

宛先は京機会の e-mail : [jimukyoku@keikikai.jp](mailto:jimukyoku@keikikai.jp) です。

原稿は、割付を考慮することなく、適当に書いてください。 MSワードで書いて頂いても結構ですし、テキストファイルと図や写真を別のファイルとして送って頂いても結構です。 割付等、掲載用の後処理は編集者が勝手に行います。 宜しくお願ひ致します。

## イギリスの3つの博物館

The National Railway Museum, The Museum of Science & Industry in Manchester, & The British Library

吉田 英生 (航空宇宙工学専攻)

yoshida@mbx.kudpc.kyoto-u.ac.jp

### 1. はじめに

ヒストリー Q “蒸気機関車”のタイミングに合わせて、鉄道王国である英国の博物館 The National Railway Museum (in York) と The Museum of Science & Industry in Manchester とを取材した(2006年9月)。また、その機会に世界最大の図書館の一つ The British Library (in London) も利用したので、これらを合わせて紹介させていただく(3都市の位置関係は図1参照)。

### 2. The National Railway Museum

York はイングランド北部にある2000年の古都 (<http://www.york.gov.uk/>, <http://www.visit-york.org/>) であり、英国最大のゴシック大聖堂 York Minster (<http://www.yorkminster.org/>) やローマ時代に作られた city wall も残る、

Ouse 川沿いの大変美しい町である。

その西端に位置する York 駅のさらに西側(裏口)に世界最大の鉄道博物館 The National Railway Museum (<http://www.nrm.org.uk/home/home.asp>) がある(図2, 図3)。

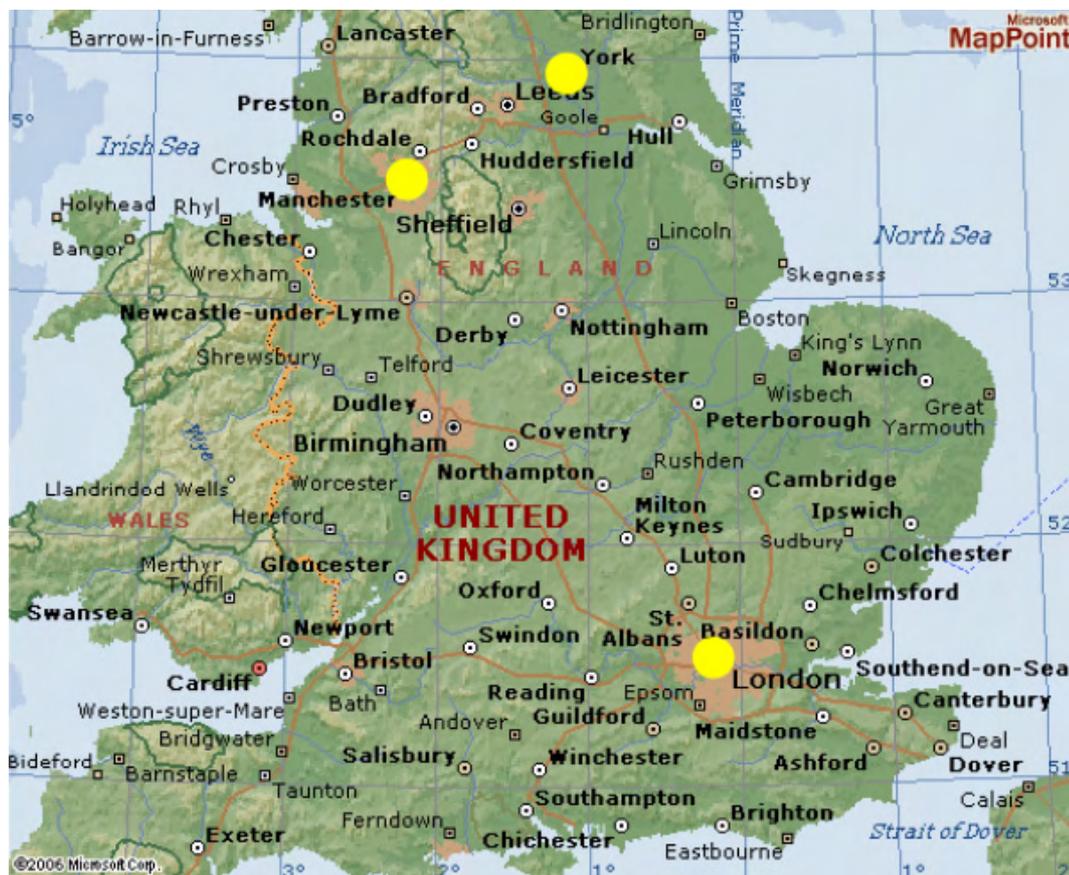


図1 London と Manchester と York

大きく分けて、



図 2 The National Railway Museum (The Norwich Union Yorkshire Wheel という観覧車も併設)



図 3 The National Railway Museum の入口 (左側) と Great Hall (右側)

入口の右側には Great Hall とさらに奥に The Works, 左側には Station Hall, があり, 英国の蒸気機関車を中心に多数の鉄道車両が展示されている.



図 4 George Stephenson の像

Great Hall の中にはターンテーブルもあるから, 以前の操車場跡であろう. Great Hall のいちばん奥には鉄道の父 George Stephenson (1781-1848) の像がある (図 4).

Great Hall に展示された数ある車両の中でも目玉というべきは以下の三つであろう (図 5-8).



図 5 Rocket 号



図 6 Mallard 号と Shinkansen

- Robert Stephenson (1803-1859) の Rocket 号(ただしレプリカ)
- 1938 年に蒸気機関車最速記録 (であると言われている) 時速 126 マイルを達成した Mallard 号
- Shinkansen 先頭車 1 両 (2001 年 5 月より展示) Rocket 号については, 第 3 章と第 4 章で触れる .

Mallard 号では, 有名な The Flying Scotsman の設計者でもある Sir Nigel Gresley (1876-1941) が流線型スタイルを採用した .

Shinkansen は島 秀雄 (1901-1998) が開発の中心となったことは言うまでもない . 同博物館の Official Guidebook [1] には以下のような記述がある .



図 7 ひいき目でなく人気者の Shinkansen



図 8 Shinkansen (室内でのビデオ放映)

“ It's hard to believe that the Bullet Train - or Shinkansen train to give it the correct Japanese name - was built in 1964, just four years after we had built the last British main line steam locomotive. But it's true. ”

筆者はさらに、“ 新幹線は日本の多くの部分が焦土と化した敗戦からわずか 19 年後に完成したことを信じられるか ” と付け加えたいと思う。

(つづく)

#### 参考文献

(全般的に参考にさせていただいた文献については、本文中では特に箇所を明記していない。)

[1] National Railway Museum, The World's Largest Railway Museum Official Guidebook, ISBN-13 9781 900747 62 2, ISBN-10 1 900747 62 6.

## 【支部総会のお知らせ】

関西支部、関東支部、中国四国支部総会が、下記日程で開催されます。  
他支部からのご出席も歓迎されておりますので、多くの皆様のご参加をお待ち申し上げます。詳細は、京機会 HP をご覧下さい。 <http://www.keikikai.jp/>

関西支部総会・新年会

日程：平成 20 年 1 月 11 日（金） 総会：17：30 ～ 新年会：18：30 ～

会場：ホテルグランヴィア大阪

申込締切 1 月 9 日（水）午前

## 関東支部総会・新年会

日程：平成20年1月26日（土） 総会：15：50～ 新年会：18：00～  
（第二世紀事業 & COE リカレント教育講座併催 13：30～15：30）

会場：学士会館

申込締切 1月18日（金）

## 中国四国支部総会・異業種交流会・ゴルフ交流会

日程：平成20年2月16日（土） 総会・異業種交流会：13：00～ 懇親会：17：40  
～ 2月17日（日） ゴルフ交流会：8：30～

会場：宇部72アジスパホテル

申込締切 総会・異業種交流会：1月15日（火）

ゴルフ交流会：1月7日（月）本日です！

# Info

## 2008年度経済見通し

1. 日本経済2007 - 2008 - 景気回復6年目の試練 -  
内閣府政策統括官（経済財政分析担当）  
<http://www5.cao.go.jp/keizai3/2007/1214nk/keizai2007-2008pdf.html>
2. 2008年東アジアの経済見通し【ジェットロ・アジア経済研究所】  
[http://www.ide.go.jp/Japanese/Press/2008\\_index.html](http://www.ide.go.jp/Japanese/Press/2008_index.html)
3. 《2008年度見通し》調整色が深まるわが国経済【日本総合研究所】  
[http://www.jri.co.jp/press/press\\_html/2007/071128.html](http://www.jri.co.jp/press/press_html/2007/071128.html)
4. 2007年度、2008年度経済見通し「当面、注意が必要な内外経済」  
【中央三井トラスト・ホールディングス】  
[http://www.chuomitsui.jp/invest/pdf/repo0712\\_2.pdf](http://www.chuomitsui.jp/invest/pdf/repo0712_2.pdf)
5. 2007・08年度内外経済見通し【みずほ総合研究所】  
[http://www.mizuho-ri.co.jp/research/economics/pdf/forecast/outlook\\_071211.pdf](http://www.mizuho-ri.co.jp/research/economics/pdf/forecast/outlook_071211.pdf)
6. 米国 2007年、2008年経済見通し  
～失速回避も金融市場混乱の影響により拡大ペースは鈍化  
【第一生命経済研究所】  
[http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/hata/pdf/h\\_0712f.pdf](http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/hata/pdf/h_0712f.pdf)
7. 2007・2008年度の経済見通し ～踊り場を迎えながらも回復基調は維持～  
【住友信託銀行】  
<http://www.sumitomotrust.co.jp/RES/research/PDF2/Outlook0711.pdf>

8 . 「2008年の世界政治・経済」【三井物産戦略研究所】

<http://mitsui.mgssi.com/issues/report/r0712xkcr.pdf>

9 . 2007/2008年度経済見通し（2007年12月）

～デフレ脱却とともに広がる景気減速要因～

【三菱UFJリサーチ&コンサルティング】

<http://www.murc.jp/report/research/shortterm/2007/0762.html>

1 . **日本経済2007 - 2008 - 景気回復6年目の試練 -**

<http://www5.cao.go.jp/keizai3/2007/1214nk/keizai2007-2008pdf.html>

平成19年12月 内閣府政策統括官（経済財政分析担当）

概要 その1 (442KB) <http://www5.cao.go.jp/keizai3/2007/1214nk/07youyaku-1.pdf>

その2 (312KB) <http://www5.cao.go.jp/keizai3/2007/1214nk/07youyaku-2.pdf>

はじめに (16KB) <http://www5.cao.go.jp/keizai3/2007/1214nk/pdf/hajime07.pdf>

目次 (13KB) <http://www5.cao.go.jp/keizai3/2007/1214nk/pdf/mokuji07.pdf>

第1章 弱い動きが交互に現れた2007年の日本経済

第1節 2007年における景気回復の姿 (54KB)

<http://www5.cao.go.jp/keizai3/2007/1214nk/pdf/07-1-1.pdf>

第2節 好調だが先行き予断を許さない海外部門 (166KB)

<http://www5.cao.go.jp/keizai3/2007/1214nk/pdf/07-1-2.pdf>

第3節 好調だった企業部門 (131KB)

<http://www5.cao.go.jp/keizai3/2007/1214nk/pdf/07-1-3.pdf>

第4節 景気回復の波及が遅れる家計部門 (176KB)

<http://www5.cao.go.jp/keizai3/2007/1214nk/pdf/07-1-4.pdf>

第5節 低調な建設投資 (135KB)

<http://www5.cao.go.jp/keizai3/2007/1214nk/pdf/07-1-5.pdf>

第6節 サブプライム住宅ローン問題の影響がみられた国内金融資本市場

(213KB) <http://www5.cao.go.jp/keizai3/2007/1214nk/pdf/07-1-6.pdf>

第2章 企業・家計の基礎体力とリスクへの備え

第1節 日本経済が直面する様々なリスク (85KB)

<http://www5.cao.go.jp/keizai3/2007/1214nk/pdf/07-2-1.pdf>

第2節 企業部門の基礎体力とリスクへの備え (152KB)

<http://www5.cao.go.jp/keizai3/2007/1214nk/pdf/07-2-2.pdf>

第3節 金融部門の基礎体力とリスクへの備え (106KB)

<http://www5.cao.go.jp/keizai3/2007/1214nk/pdf/07-2-3.pdf>

第4節 家計部門の基礎体力とリスクへの備え (89KB)

<http://www5.cao.go.jp/keizai3/2007/1214nk/pdf/07-2-4.pdf>

## 第3章 景気回復持続に向けた展望

### 第1節 物価が上昇に転じなかった背景 (234KB)

<http://www5.cao.go.jp/keizai3/2007/1214nk/pdf/07-3-1.pdf>

### 第2節 物価の安定に向けた道筋 (107KB)

<http://www5.cao.go.jp/keizai3/2007/1214nk/pdf/07-3-2.pdf>

### 第3節 景気回復持続のメカニズム (222KB)

<http://www5.cao.go.jp/keizai3/2007/1214nk/pdf/07-3-3.pdf>

### 付図・付表・付注 (584KB)

<http://www5.cao.go.jp/keizai3/2007/1214nk/pdf/07fuzu.pdf>

### 参考文献 (26KB)

<http://www5.cao.go.jp/keizai3/2007/1214nk/pdf/07sankou.pdf>

## 2. 2008年東アジアの経済見通し

[http://www.ide.go.jp/Japanese/Press/2008\\_index.html](http://www.ide.go.jp/Japanese/Press/2008_index.html)

2007年12月11日

ジェトロ・アジア経済研究所

ジェトロ・アジア経済研究所は、中国、NIES、ASEAN5か国のマクロ計量経済モデルの構築と、現地研究機関との共同研究を行っている。今回の発表は、これら東アジア10か国・地域経済の2007年実績推計と2008年経済予測である。

### 2008年東アジアの経済見通し (716KB)

[http://www.ide.go.jp/Japanese/Press/pdf/j2008\\_Economic\\_Outlook\\_for\\_East\\_Asia.pdf](http://www.ide.go.jp/Japanese/Press/pdf/j2008_Economic_Outlook_for_East_Asia.pdf)

#### 【要約】

##### 外的要因

- (1) 米サブプライム問題は2008年後半には収束に向かい、米国実体経済への影響は限定的と想定。2008年の米国、日本、欧州経済は鈍化。
- (2) 金融市場の不透明感などから、投機的資金が商品市場に流入している。2008年後半には金融市場への資金還流も見込まれ、原油価格は80ドル前後と想定。
- (3) ドル離れからアジア通貨高が進行している。この傾向は2008年も続くと思込む。
- (4) 2007年に価格が下落した半導体は、さらなる下落余地は少ない。

#### 2007年の東アジア経済

- (1) 中国は、投資と輸出が引き続き好調で、前年を上回る11.5%成長。一般物価は3.4%の上昇。
- (2) NIESでは、各国・地域とも外需の伸び率の鈍化を内需が下支えする傾向が見ら

れ、全体では、前年を下回る5.4%成長。一般物価は1.4%の上昇。

- (3) ASEAN5 力国では、インドネシアで投資が回復、タイは政局混迷から民間内需不振。マレーシア・フィリピンは内需が下支え。ベトナムは工業・サービスの両部門が牽引。ASEAN5 力国全体では、前年を0.4ポイント上回る6.0%成長。一般物価は5.0%の上昇。
- (4) 中国とASEANの成長加速により、東アジア全体の経済は、前年を上回る8.7%成長。一般物価は3.1%の上昇。

## 2008年の東アジア経済

- (1) 中国は、内需の牽引で10.6%成長と6年連続の二桁成長。物価は安定。
- (2) NIESは、シンガポールが輸出回復。他3力国・地域は外需の減速を内需が下支え。NIES全体では、前年を下回る5.0%成長。
- (3) ASEAN5 力国では、タイとマレーシアで内需が堅調。インドネシアは内外需ともに好調。フィリピンは内外需とも減速。ベトナムはさらに加速。5力国全体では、6.1%の安定成長。物価上昇は前年と同率。
- (4) 東アジア全体では、経済規模・拡大速度ともに圧倒的な中国の傾向を反映し、前年の8.7%からは低下するものの、8.2%と好調な成長が継続。一般物価上昇率は3.2%と安定。

## お問い合わせ先

植村仁一 TEL : 043-299-9673 (直通)

高橋和志 TEL : 043-299-9694 (直通)

FAXによるお問い合わせ : 043-299-9763 (共通)

## < 資料請求先 >

アジア経済研究所 研究支援部 成果普及課

TEL : 043-299-9536 FAX : 043-299-9726 E-mail : info@ide.go.jp

印刷物をご希望の方はこちらまでお問い合わせください。

## 3. 《 2008年度見通し 》 調整色が深まるわが国経済 2007年11月28日

[http://www.jri.co.jp/press/press\\_html/2007/071128.html](http://www.jri.co.jp/press/press_html/2007/071128.html)

日本総合研究所 調査部 マクロ経済研究センター

レポート全文(全18page)[PDF304KB] [http://www.jri.co.jp/press/2007/jri\\_071128.pdf](http://www.jri.co.jp/press/2007/jri_071128.pdf)

## 要 約

1. わが国経済は、家計部門の低迷が続くなか、新興国・資源国向けに牽引された輸出と前向きな設備投資スタンスを背景に、企業部門主導の緩やかなペースの回復基調が持続。もっとも、2007年夏ごろから、a. 米サブプライム問題、b.

原油など一次産品価格の高騰、c. 建築基準法改正による建築着工の大幅減少、といったマイナス要因が台頭し、景気の下振れ圧力が強まりつつある状況。

2. 前提としての海外経済を展望すると、米サブプライム問題の影響を受け、世界的に景気は徐々に減速する方向。とりわけ米国では、家計・企業ともマインドが冷え始めており、サブプライム問題が实体经济に与えるマイナス影響は長期化の様相。もっとも、新興国・資源国では基本的に高成長が持続して、世界経済を牽引する構図が持続。わが国輸出も、新興国・資源国向けに支えられて、ペースは鈍化しながらも増勢は持続する見通し。
3. このように外需は堅調を維持するものの、三つのマイナス要因がわが国の企業部門・家計部門を大きく下押しする見通し。

イ) サブプライム問題に端を発した株価下落により、消費・企業マインドが悪化、成長率を押し下げ。

ロ) 原油価格上昇の大半は企業部門のコストとして吸収されるため、経常利益が4.4兆円減少。また、ガソリン・灯油価格の上昇を通じて家計負担は1.1兆円増加。

ハ) 建築着工の減少が、以下の3ルートを通じて景気にマイナス影響。

(1)住宅投資の大幅減少。

(2)企業の建築投資が減少。工場の着工減により、機械受注も減少する恐れ。

(3)耐久財の購入減、建設関連産業の業績悪化に伴う所得環境の悪化により、個人消費が下振れ。

4. 2008年いっぱいには、これら3要因がわが国成長率を攪乱し、経済の成長パスをファンダメンタルズの実勢から大きく乖離して下押し公算。

イ) 2007年度下期は、住宅投資と企業の建築投資の減少を主因に、景気に調整色が強まる見込み。企業収益・雇用者報酬も前年比減少に転じる公算。この結果、2007年度の成長率は、政府・日本銀行の見通しを大きく下回る1.0%に。

ロ) 2008年度入り後は、建築着工が回復するという前提に立てば、2008年夏ごろにかけ住宅投資、企業の建築投資の増勢が強まり、成長率を押し上げる見通し。2008年度の成長率も2.2%と堅調な数値に回復。

ハ) ただし、2008年度の堅調さは、大幅に落ち込んだ水準からの「揺り戻し」にすぎず、ポジティブに捉えるべき動きとはみなせず。建築投資のペントアップ・デマンドを除外した成長率には脆弱さが残る見込み。

二) また、一次産品価格が上昇するなか、最終製品・サービスへの価格転嫁が進まないため、GDPデフレーターの下落傾向も持続する見通し。名実逆転の解消は当面見込み薄。

5. 以上のように、わが国経済が厳しい状況に陥る可能性が高いことを踏まえれば、当面は、景気下振れを意識した政策運営に重心を移すことが必要。とりわけ、建築確認の明確化・迅速化が最優先課題。また、日銀も景気下振れリスク

への警戒に重心を置いた金融政策スタンスに転換すべき。

6. 中長期的な視点で考えると、内需による景気牽引力を高めることが課題。グローバル化が進展するなか、海外景気の減速、海外株価の下落、信用不安の波及など様々なルートを通じて、外的ショックに翻弄される局面が増加。これは、将来不安によるマインド悪化、様々な分野での二極化の拡大などを背景に、わが国の内需が脆弱で、経済全体として、外的ショックに対する抵抗力が衰える方向にあることが主因。強力な成長戦略を断行することにより、所得低迷、格差問題などを乗り越えていくことが必要。

本件に関するお問合せ先

株式会社 日本総合研究所 調査部 マクロ経済研究センター

主任研究員 忝村 秀樹

E-mail : matsumura.hideki@jri.co.jp

Tel : 03-3288-4524

4 . 2007 年度、2008 年度経済見通し「当面、注意が必要な内外経済」

[http://www.chuomitsui.jp/invest/pdf/repo0712\\_2.pdf](http://www.chuomitsui.jp/invest/pdf/repo0712_2.pdf)

中央三井トラスト・ホールディングス

5 . 2007・08 年度 内外経済見通し (2007 年 7 ~ 9 月期 2 次 Q E 後改訂)

[http://www.mizuho-ri.co.jp/research/economics/pdf/forecast/outlook\\_071211.pdf](http://www.mizuho-ri.co.jp/research/economics/pdf/forecast/outlook_071211.pdf)

みずほ総合研究所

6 . 米国 2007 年、2008 年経済見通し

~ 失速回避も金融市場混乱の影響により拡大ペースは鈍化

[http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/hata/pdf/h\\_0712f.pdf](http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/hata/pdf/h_0712f.pdf)

7 . 2007・2008 年度の経済見通し 「調査月報」住友信託銀行

~ 踊り場を迎えながらも回復基調は維持 ~

<http://www.sumitomotrust.co.jp/RES/research/PDF2/Outlook0711.pdf>

8 . 「2008 年の世界政治・経済」 三井物産戦略研究所 国際情報部

<http://mitsui.mgssi.com/issues/report/r0712xkcr.pdf>

. 世界政治・経済展望 - 新たな秩序形成が視野に -

1. 政治・国際情勢

2. 経済情勢

補足：世界経済の歪みの調整状況

3. 2008 年の予定

. トピックス

1. 米国大統領選挙に向けた動き

2. サブプライムローン問題のインプリケーション

3. 洞爺湖サミットに向けた環境政策の動向

#### 4. 原油価格の展望... 20BOX：中東オイルマネーの動向

・各地域政治・経済の現状と展望

1. 米国
2. 日本
3. 欧州
4. ロシア・CIS
5. 中国・中華圏
6. 東南アジア
7. 南西アジア
8. 中南米
9. 豪州

BOX：国境を越えるアジアマネー

### 9 . 2007/2008 年度経済見通し (2007年12月) (2次QE反映後)

～デフレ脱却とともに広がる景気減速要因～

<http://www.murc.jp/report/research/shortterm/2007/0762.html>

三菱UFJリサーチ&コンサルティング

#### <要旨>

12月7日に発表された7～9月期のGDP(2次速報)と、最近公表された各種経済指標の動向を踏まえて、「2007/2008年度の経済見通し」(11月15日発表)の見直しを行った。

7～9月期のGDP 2次速報では、実質成長率が前期比+0.4%(同年率+1.5%)と1次速報の同+0.6%(同年率+2.6%)から0.2%ポイント下方修正された。名目成長率も同+0.2%と1次速報の同+0.3%から下方修正された。GDPデフレーターは前年同期比-0.4%となり、1次速報の同-0.3%から低下幅が拡大した。

7～9月期までの成長率が下方修正されたことに加え、雇用所得や物価の情勢など個人消費を取り巻く環境が厳しくなっていることを踏まえて、成長率見通しを小幅下方修正した。サブプライムローン問題などの不安材料を抱えながらも、日本経済が緩やかな拡大を続けるという基本シナリオに変更はないが、デフレからインフレへという環境変化が実質成長率をやや押し下げる方向に作用しそうだ。

PDFファイルで 図表入り全文を提供しています。(259KB)

<http://www.murc.jp/report/research/shortterm/2007/0762.pdf>